

漁 港

・漁港数

本県は、豊かな漁場と全国有数の海岸線延長から、津々浦々に漁港が点在しており、漁港数は全国3位の195港を擁しています。

(上段)は離島分で内数 H31.4現在

区 分	燧 灘	伊予灘	宇和海	計	備 考
第4種漁港	—	—	(1) 2	(1) 2	離島その他辺地にあって、漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの
第3種漁港	—	—	(0) 3	(0) 3	その利用範囲が全国的なもの
第2種漁港	(1) 4	(0) 4	(2) 14	(3) 22	その利用範囲が第1種より広く、第3種に属さないもの
第1種漁港	(14) 39	(18) 47	(5) 82	(37) 168	その利用範囲が地元の漁業を主とするもの
計	(15) 43	(18) 51	(8) 101	(41) 195	※県管理：第4種(佐田岬。本浦)

全国漁港数 ①長崎県248 ②北海道243 ③愛媛県195 ④宮城県142 ⑤鹿児島県139

県内漁港数 ①宇和島市52(全国第2位) ②今治市27 ③松山市24

・漁港の地震・津波対策

漁港施設については、拠点漁港等である19漁港における岸壁や防波堤などの主要施設を対象に地震・津波に対する機能診断を実施し、その結果に基づき必要な対策工事を進めています。

種 類	漁港名	備 考
流通拠点 (2)	八幡浜、深浦	圏域を代表する産地市場を有し、一定の港勢(取扱量5千トン以上等)がある漁港
生産拠点 (14)	桜井、大浜、小部、宮窪、口総、上灘、豊田、佐田岬、魚泊、国永、奥浦、本浦、中浦、船越	生産地としての中核的な役割を担う漁港で、一定の港勢(利用漁船50隻程度以上等)がある漁港
防災拠点 (4)	宮窪、豊田、深浦、船越(流通・防災拠点漁港と重複)	震災直後の緊急物資や避難者の海上輸送等の利用が想定される漁港(地域防災計画)
地域性 (3)	河原津、結出、御荘	拠点漁港ではないが水産業の振興上、重要な漁港

・漁港施設の老朽化対策

県内195漁港のうち、135港※については、機能保全計画を策定し、漁港施設の老朽化対策工事に取り組んでいます。また、機能保全計画が未策定の漁港についても、漁港の統合・機能集約等を検討したうえで、早急に機能保全計画の策定を目指します。

※国の補助事業により機能保全計画を策定した漁港数(H31.4時点)

海 岸

・海岸延長

本県の海岸線は、瀬戸内海を中心に大小200もの島々があることと宇和海沿岸がリアス式海岸となっていることから、総延長は約1,700km(全国第5位)、このうち漁港海岸の延長は約400km(全国3位)となっています。

H30.3末現在

区 分	燧 灘 (km)	伊予灘 (km)	宇和海 (km)	計 (km)	備 考
本県の海岸延長	579	383	742	1,704	
うち漁港海岸	54	67	268	389	

全国海岸延長：①北海道 ②長崎県 ③鹿児島県 ④沖縄県 ⑤愛媛県

漁港海岸延長：①長崎県 ②山口県 ③愛媛県 ④北海道 ⑤鹿児島県

・漁港海岸の整備方針

海岸保全施設については、愛媛県海岸保全基本計画(H27.9改正)に基づき、「整備対象海岸」のうち緊急性及び背後地の重要性等の観点から、「重点整備海岸」(30海岸約26km)を選定し護岸等の整備を進めています。

(上段)は県管理分で内数

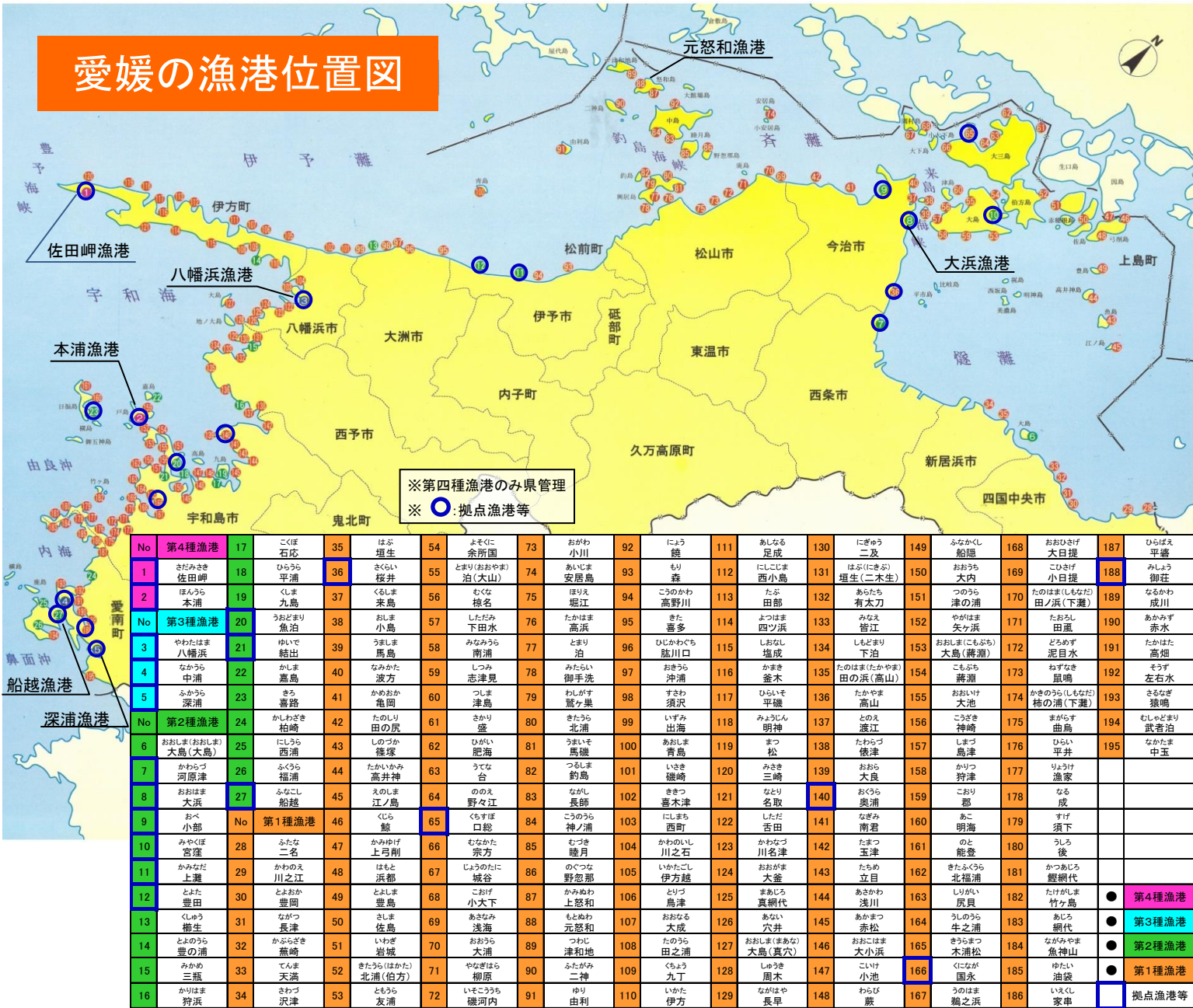
区 分	海岸 (箇所)	地区 (箇所)	延長 (km)	備 考
要保全海岸区域	(2)	(2)	(4.5)	背後を保全する必要のある海岸
うち整備対象海岸	(2)	(2)	(2.3)	今後整備すべき海岸
うち重点整備海岸	(1)	(1)	(2.0)	概ね20年間に重点的に整備すべき海岸

海岸保全施設整備事業



第2種船越漁港(愛南町)

愛媛の漁港位置図



県管理漁港の整備

A防波堤 180m
ジャケット式
H18完成



第4種本浦漁港(宇和島市)

沖防波堤 80m
ジャケット式
H26完成

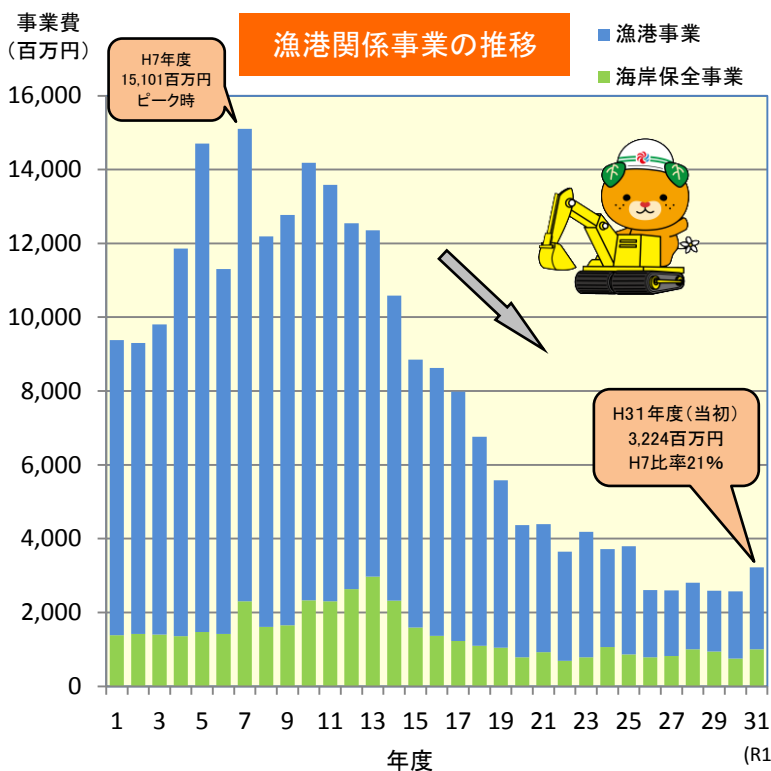
※設置水深
-46.7m
(全国第1位)
※鋼管杭長
89.3m
(全国第1位)



第4種佐田岬漁港(伊方町)

-2.5物揚場 70m
浮体式
H7完成

護岸(耐震化)
H27完成



カツオの水揚げ(深浦漁港)



荷捌所(八幡浜漁港)



愛媛県農林水産研究所 水産研究センター

チョコブリ

チョコブリ

愛育ファッション

愛媛県農林水産研究所水産研究センターでは、チョコレートに含まれるカカオ成分を飼料に混ぜて与えることにより、切り身の変色を抑制する技術を開発しました。

通常ブリ(2日目)



チョコブリ(5日目)



県管理漁港の変遷

第4種 本浦漁港(宇和島市戸島)



第4種 佐田岬漁港(西宇和郡伊方町串・正野)



未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選 (2006水産庁発表)

未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選とは、水産庁が2006年(平成18年)2月17日に発表した百選。全国の漁村に残る歴史的・文化的に価値の高い施設や史跡などの文化遺産を公募により募集し、応募のあった350件から、地域固有の漁業文化や珍しい建築工法や形状などを基準として選定委員会により選定したもの。

佐田岬漁港の石垣(伊方町)



佐田岬半島先端に位置する当地区は、古くから漁村として栄えてきたが、地理的に波や風の影響が強く、その波風から民家を守るため、集落の外側を囲むように石垣が積み上げられている。石垣は、高価な庭石として知られる、扁平で深緑の緑泥変岩「伊予の青石」を積み上げており、景観はすばらしく、厳しい自然と調和しながら生活してきた人々の歴史を偲ばせる。

水が浦の段々畑(宇和島市)



宇和海に突き出た三浦半島の北部に位置する遊子、かつてイワシ網漁業の盛んな地区であった。漁業者たちが自給自足の生活ができるよう、急峻な山を有効に利用し、段々畑が開墾された。段々畑の肥料として豊富に漁獲されたイワシが使われていた。さきの大戦後、食料不足が深刻になり、さらに開墾が進んだ。昭和30年代後半、養殖産業が始まり、今は基幹産業のひとつとなっている。その過程の中で段々畑は減少してきたが、近年「段畑守ろう会」などの活動により、再び元気を取り戻しつつある。「日本農村景観百景」、「四国のみずべ八十八カ所」などにも選ばれており、眼下に広がる宇和海と段畑の織りなす美しい景観はすばらしい。

外泊の石垣(愛南町)



外泊の石垣は、台風や冬の強い北西の季節風から家屋を守るために明治時代初期に建築された。先人の知恵と汗が染み込んだ石垣は、急峻な土地に整然と区画され、それは家々の軒に達するほど見事に積み上げられている。また、家の海側に面した部分には、「遠見窓」と呼ばれる小窓が設けられ、漁港からの出船入船を見守っていた。石垣の群れが織り成す景観は、古き良き時代の漁村の面影が刻まれ、今も一種独特の雰囲気を感じ出している。

お魚マップ



ダークみきやん

愛媛県農林水産部水産局漁港課

〒790-8570 松山市一番町4-4-2
 電話番号 (089)912-2625
 FAX番号 (089)932-5467
 E-mail gyokou@pref.ehime.lg.jp

